



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2012

5月31日号

131
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

会長就任にあたって



会長 齋藤 康雄

平成24年度の定期総会も終わり、新年度の活動が始まった。私は昨年度の理事会の決議により年度途中で会長職に就任したが、実質的には今年度が最初の年度になる。前会長のようなバイタリティーや指導力には到底及ぶはずもなく、使命感だけでお引き受けしたようなもので、今まで以上のご支援とご協力をお願いしたい。

平成23年度は東日本大震災直後でもあり、復旧・復興と平行して事業が行われたが、役員の方々の頑張りもあってほぼ予定していた事業が実施された。福島県は震災に伴う原子力発電所事故の被災もあり未曾有の事態となって、その対応の最中鈴木会長が急逝され、突然リーダーを失った。その後は副会長二人が会長代行を勤めてきたが、取り分け遊佐副会長が率先して会務を果たしたことで、事業もほぼ成し遂げることができたことに対し改めて感謝申し上げる。悲願とも言える公益社団法人への移行は、臨時総会まで開催して定款改定を行い対応してきたが、片倉監事の並々ならぬご努力も空しく結果的に取り下げという事態になってしまった。平成24年度内の許認可取得を目差し再申請に取り組んでいく所存である。

今年度は、新たな事業の展開を図るために原発災害対策委員会と、理事会で提案のあった放射線機器管理士部会の2組織を立ち上げた。社団法人としての公的事業を踏まえながら、会員にとっても意義のある事業の展開を目指したいと考えている。原発災害対策委員会は、昨年原発事故以来いろいろな場面で診療放射線技師への要請が届いている中で、その都度それぞれの立場で対応して評価もされてきたが、一貫性に欠けることは否めず会員の活動の把握も難しい状況であった。今年度は復興元年とも言われているように、放射線被ばく測定や啓発に関する事業は今後も長期に亘り継続していく必要がある。永続して県民の負託に応えるためには、原発事故関連事業を1本化して活動を具体的に検討し実践する組織が必要であることから、原発災害対策委員会を設置した。福島県、各市町村、日本放射線技師会や関連団体とも情報を共有し連携を図りながら、リスクコミュニケーション、測定装置の精度管理、対応する人材の育成などの活動を推進していきたい。また、X線撮影装置の精度管理は、質の高いX線写真の提供や被ばく線量の管理には不可欠で、我々の業務の裏付けでもあり、それが無ければ信頼性にも欠けることは必至であるという観点から、日本放射線技師会認定資格の放射線機器管理士が中心となる組織を立ち上げることとした。この活動を行うことにより、放射線機器管理士認定資格停止状態の会員が更新するための実績作りにもなる。非接触型の簡易測定器を購入して、貸し出しや精度管理の啓発などに取り組んでいくことにする。その他には、業務の拡大に伴う講習会や、県から委託として感染症対策強化推進事業(結核対策放射線技師コース 年1回 2年間)などの開催も予定している。

課題は山積であるが、忌憚のないご意見をいただきながら会運営に当たっていく所存である。そして、チーム医療が取りざたされている中、関係他団体との連携は必須で有り、機会があれば積極的に関わって行きたいと考えている。会の活性化は役員や会長の頑張りだけで成せるものではない。当然のことながら会員の参加を欠かすことができず、より多くの会員が実践者として関わることができる組織作りをしていきたい。会員諸氏の積極的な参加をお願いする。

第4回理事会議事録（抄）

日時：平成24年3月2日(金) 14時00分
 場所：県立医大附属病院放射線部カンファランス室
 出席理事：副会長齋藤康雄、同遊佐烈、理事佐藤靖芳、
 同佐藤政春、同白川義廣、同今野広一、同佐藤佳晴、同嶋田峻二、同古川義一、同渡邊和夫、同菅野和之、同小松一文、同渡部育夫、同新里昌一、監事片倉俊彦
 (理事平井和子欠席、同堀江常満欠席)

議長に齋藤康雄、議事録作成人に佐藤靖芳、議事録署名人に遊佐烈及び佐藤政春を決め、議事に入る。

議題1、会長理事選任等について

副会長遊佐烈から以下の提案理由が述べられた。

現在まで昨年7月に急逝された福島県放射線技師会会長鈴木憲二氏の職務を齋藤康雄と遊佐烈の2名の副会長が社団法人福島県放射線技師会定款第12条2項の規定により代行して来た。新会長を決めずに職務を行ってきた理由の一つに、公益社団法人移行への手続き途中であり、本年3月末頃までに移行手続き受理が行われるものとし、5月の定期総会時に社団法人福島県放射線技師会を解散し、同日、公益社団法人福島県放射線技師会を設立、そこで初代の会長として齋藤康雄氏が就任する予定であった。

しかし、福島県の担当者より、公益社団法人への移行手続きを一時取り下げて、再度新年度予算等書類を提出し、公益社団法人への申請をするようにとの勧告があり、従いたい。

今後の職務手続きを円滑に行うため、齋藤康雄氏に会長職就任のうえ、公益社団法人福島県放射線技師会の設立を推進して頂きたい。なお、欠員となる副会長には理事今野広一氏の就任を併せて提案する。

議長は、出席理事に諮ったところ、出席理事全員の賛成と、齋藤康雄、今野広一の就任承諾をもって提案通り決定した。

以上で議案全部の審議を終了したので議長は午後2時40分閉会を宣言し解散した。

上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名人は次ぎに記名押印する。

平成24年3月2日

議長	理事副会長	印
議事録署名人	理事副会長	印
〃	理事	印

「第66回(平成24年度)社団法人福島県放射線技師会総会」開催される

第66回社団法人福島県放射線技師会総会が、5月19日(土)に郡山ユラックス熱海で開催された。

総会に先立ち各分科会から平成23年度の活動報告が行われた後、特別講演が一般公開形式で「臓器移植の現状」と題して社団法人日本臓器移植ネットワーク東日本支部東北連絡所 上野秋花先生から臓器移植の現状についてわかり易い内容で、具体的に費用の負担があることなどについても説明がなされ、大変有意義な講演となった。



総会は齋藤会長の挨拶で始まり、続いて会員の永年勤続表彰が行われ、日本放射線技師会で表彰される

50年永年勤続は佐藤知好(県労働保健センター)、高田希一、30年永年勤続は、大類幸悦(大原総合)、船生晴雄(松村総合)、天野 勉(小名浜生協)、佐藤二郎(保健衛生)、田中邦夫(磐城共立)、草野義直(磐城共立)、目黒昭夫(会津総合)の各人の名前が読み上げられた。20年永年勤続は、石田篤史(保健衛生)、続橋順市(星総合)、安藤善仁(太田西ノ内)、穴澤明弘(坂下厚生)、岩井秀憲(県立南会津)、足利広行(竹田総合)、水野 孝(大河内記念)、佐々木亮浩(福島労災)、久米本裕樹(南相馬市立)、外山 慎(保健衛生)に表彰状が手渡された。

平成23年度学術奨励賞は、「TRANCE法における最適撮像条件の検討」 城戸 修(坂下厚生)、「IVR検査におけるスタッフの被ばく低減及び意識改善 第2報」 我妻真一(白河厚生)の両氏が選ばれた。

総会は、議会運営委員長の濱端孝彦氏より、本総会は正会員数627名中497名の出席があり、成立する旨の宣言があった。議長に白石嘉博、町田拓郎の両氏が選出され、提案された議案は原案通り可決された。



「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」が開催される

平成24年5月12日(土)福島県立医科大学講堂において「放射線・放射能を正しく理解するための市民公開講座」が開催された。この公開講座は、医学的・学術的な観点から正しい知識・情報を提供する趣旨で日本放射線技術学会東北部会・放射線防護分科会・計測分科会の主催で行われ、福島県放射線技師会はその後援として加わり、昨年に引き続き第2回目の開催となった。この公開講座には一般市民や報道機関、学会員など344名が参加し、大変に充実した内容の市民公開講座となった。プログラムは次の通りです。

【講演 部】

1. 「放射線影響に対する考え方について」
「防護を考えるうえでの基礎知識」
筑波大学医学医療系 准教授 磯辺智範先生
「生体影響の立場と防護の立場」
京都大学 名誉教授 丹羽太貫先生
2. 「こどもの健康と放射線被ばくについて考える」
放射線医学総合研究所 発達期被ばく影響研究
プログラムリーダー 島田義也先生



【講演 部】

3. 「被ばく量を正しく推定するために」
「測定評価の基礎的事項と放射線単位の換算について」
東北大学医学系保健学専攻 教授 千田浩一先生
「実際の測定現状と特徴について」
福島医大放射線健康管理学講座 宮崎 真先生
4. 「福島県民の被ばく線量と健康状況について」
福島医大放射線健康管理学講座 教授 大津留晶先生

会場ロビーでは講座と平行して「質問・相談コーナー」や「放射線測定器展示コーナー」も設けられ、放射線防護分科会員、計測分科会員、東北部会役員の方々様が様々な質問に対応していた。また、「正しい理解と安心のためにQ & A」(全88の質問とその答えや、食品摂取による内部被ばく量の計算法などについて詳しく解説された

冊子)の配布が行われ大変に好評であった。



原発事故から1年が経過したこの時期に開催された今回の公開講座は、放射線技師が市民の方々に少しでも不安を軽減し、正しい知識と情報を提供することが出来た有意義な企画であったと思います。役員として参加された皆様、大変にご苦労様でした。

平成24年度 福島県放射線技師会学術大会 演題募集要項

開催日 平成24年11月11日(日曜日)
会場 福島県立医科大学 講堂

演題申込 700字以内の抄録

(演題名、施設名、発表者名、共同研究者名、日放技の会員番号《共同研究者を含む、県の場合のみは県の会員番号》、目的、方法、結果《図表不可》)を記入のうえ、県HP窓口からメール(1演題1メール)で申し込んでください。

申込期間 6月1日(金曜日)から

申込締切 8月31日(金曜日)

予稿集は10月下旬には発送予定しております。

大会事務局 〒963-8558 郡山市2-5-20
太田西ノ内病院 放射線部内
実行委員長 新里昌一
電話 024(925)1188 (内線)31265
e-mail fgakujutsu@yahoo.co.jp

支 部 だ よ り

県 北 支 部

「平成24年度県北支部総会」開催される

去る平成24年4月26日、県北支部総会が福島テルサにおいて開催された。福島医大の金澤崇史さん、大原綜合病院の安藤智則さんが議長に選出され「会員数171名中、委任状を含む出席者が133名」との資格審査委員からの報告で総会の有効宣言がされた。議事は大きな問題も出ず、事業計画及び予算も満場一致で承認された。総会で

は佐藤靖芳支部長より「本年度も支部独自の勉強会を開催しながら多くの会員が参加して頂けるよう努力していきたい」とのお話があった。また併せて3名の新任理事や今回の学術奨励賞受賞者の紹介もあった。総会終了後には懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中で遅くまで親睦が続いていた。今後も支部の活動をより活発化するために会員の皆様の積極的な参加を希望します。



浜 通 支 部

「平成24年度浜通り支部総会」開催される

4月28日(土)午後2時よりいわき市立総合磐城共立病院内部被ばく測定会場において、第60回社団法人福島県放射線技師会浜通り支部総会が行われた。総会に先立ち平成24年度第1回浜通り支部役員会も午後1時より同所で行われた。

役員会では今野支部長より県技師会会長選任についての説明があり、昨年7月に急逝された鈴木会長の後任には齋藤康雄副会長が、副会長には今野広一理事がそれぞれ選任されたとの報告があった。また、公益法人移行への手続きについては県担当者の指導の下、申請書類を一度取り下げ、再度、申請書類を提出するとの報告があった。また、県技師会の活動として放射線測定器を購入し各支部へ配置してあるのでご利用下さいとの説明もあった。



総会開会にあたり支部長挨拶の後、東日本大震災による行方不明者捜索活動の一環として遺体検案前スクリーニングに参加された嶋田峻二(南相馬市立)、花井辰夫

(南相馬市立)、久米本祐樹(南相馬市立)、古内孝紀(渡辺病院)の各氏に本会の活動に著しい功績が認められたことより表彰状が手渡された。

総会は議長に田中邦夫氏、牟田真一氏が選出され、資格審査委員からの報告により、正会員数152名、会場出席者19名、委任状出席者98名、計117名の出席により成立する旨の宣言があった。議案は執行部原案通り可決され閉会となった。(鈴木)

「いわき乳腺疾患フォーラム 学術講演会」開催される
平成24年5月25日、週末の金曜日、小雨模様にも関わらずに多くの施設から様々な職種の方が集い、「いわき乳腺疾患フォーラム」が開催されました。

講演は、星総合病院 乳がん認定看護師 藤田由紀先生の「乳がん患者の看護の実際」と題して、外来受診から乳がん治療の流れ、術式の決定、乳がん患者の手術に関する環境の変遷、病状説明後のフォローまで、認定看護師ならではの視点で講義をして下さいました。



第二部の特別講演は、星総合病院 病院長代行 外科乳腺外科 野水 整先生が「乳腺外科における乳がんの診療と研究の実際」と題して講演して下さいました。野水先生は、家族性乳がんの研究に携わっており、乳がんの診断、MDC Tによる広がり診断、各モダリティ別での検査法、術式の変遷、先進医療のセンチネルリンパ節生検、化学療法、支援療法など基礎的なことから専門的なことまで詳しく講義して下さいました。また、チーム医療の大切さを話して下さい、各職種での認定制度の実際にも触れて、ますます各分野での専門性が高まっていることを改めて実感致しました。(共立 村上)

編 集 後 記

東日本大震災から1年が経過し、昨今の今頃は何をしていたかと考えるときがある。原発事故への不安は言うまでもなく、あの時と同じような地震がまた発生したらと思うと背筋が寒くなる。現在も原発事故の影響で避難を強いられている県民は多数いる。その方々が住んでいた地域が復興し初めて「真の復興」と私は考える。国のきめ細やかな支援を期待する。(鈴木)